

巻 頭 言

近年、地域社会を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。国内で人口減少や都市の縮小が進む一方、アジアでは都市の巨大化と縮小が併存する多様な動態がみられます。このような状況のもと、経済成長を前提とした従来の都市モデルは見直しを迫られ、地域の自立性と持続可能性を再設計することが共通課題となっています。また、多文化化の進展は不可逆である一方、その過程で摩擦や反発も表面化しており、「内なる国際化」は日本の地域社会において避けて通れない重要テーマとなっています。

同時に、急速な変動の時代だからこそ、地域社会を支える基盤としての「ヒューマン・スケール」の重要性が再認識されています。個人・集団レベルの心理・社会的プロセスを的確に理解し、当事者が参画する協働の仕組みを組み込むことは、コミュニティ形成や合意形成、さらにはガバナンスの更新に不可欠です。さらに、気候変動に伴う災害リスクの高まりに対しては、行政主導に限定されない住民参加型のレジリエンス形成が求められています。地域情報研究所は、地域 — 都市 — 国際の多層的視点にヒューマン・スケールの洞察を統合し、学際と実践を往還させながら、地域科学の新たな地平を切り拓いてまいります。

今回の『地域情報研究』には、地域や社会が直面する重要課題を扱った論考が収められています。こうした先端的な研究成果を広く発信できることは、本研究所にとって大きな学術的・社会的貢献であり、新たな社会共生価値の創出にもつながります。とりわけ今回は、大学院生による査読付き論文、所属教員の論文・研究ノートに加えて、本研究所にも所属する前期課程院生と本研究所を巣立った若手教員らによる共著の研究ノートも掲載され、若手研究者育成の成果が具体的な形で結実しています。

創発性人材の育成は、本学の研究所・研究センターに共通する使命であり、地域情報研究所としても今後いっそう力を注いでまいります。引き続き、皆さまからの温かいご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

立命館大学地域情報研究所

所長 豊田 祐輔

2026年3月

